

— 平井さんはどのような経緯で気象予報士になられたのでしょうか。

子どもの頃からの夢でした。小学校の高学年で自分史のようなものを作ったんですが、その中に気象予報士になりたいという絵や作文が残っています。中学3年生の卒業文集にNHKの気象予報士になりたいと書いていました。

— 最初からNHKで気象予報士に、と思われていたのですね。

NHKの気象キャスターの方々に憧れていきました。去年の夏に天国に逝かれました、NHKの気象キャスターをされていた宮沢清治さんを子どもに見て、あんな風になりました。的確に分かりやすく、語り口がとても優しくて、

災害の時にはピシッと防災情報を伝えて、私たちを災害から守ってくれるようなコメントをされていたと記憶しています。

— 気象に興味を持たれたのはどうしてですか。

生まれ育った熊本県八代市という所は、川があつて山があつて海があつてという環境でしたから、ほとんど外で遊んでいました。川で泳いだり魚釣りをしたり、海で遊んだり山に基地を作ったり…。そうした中で自然と気象に興味を持つようになりました。

色々な災害を体験したのも大きかったと思います。球磨川という川が近くに流れています。雨が降るとそ

の川の水かさが増して凄い勢いで流

れて学校が休みになつたりして。そ

んな経験をして、それに自然が大好きだったというのが重なつてどんどん興味が気象の方へ向かっていきました。

— 熊本に比べて埼玉は自然が少ないと思われませんか。

いやいや、埼玉にも自然がいっぱいあるじゃないですか。川の面積率は日本一ですよ。うちの近くにある古利根川の近くなんて、走っていると気持ちいいですよ。

自分は、熊本を離れて初めてこんなにも熊本の水はきれいだったんだと感じました。湧水や地下水も豊富で、熊本の水道水は日本一と聞いています。埼玉も外から見てみるとその良さを感じるのではないかでしょう

# ふるさと埼玉を もつと好きになろう

NHKのお天気コーナーでお馴染み、気象予報士の平井信行さん。  
未来を生きる子どもたちに、ぜひ身近な環境に目を向けてほしいと話します。



平井 信行(ひらい・のぶゆき)

1967年 熊本県八代市生まれ。  
1991年～2003年 財団法人日本気象協会。  
2004年～2009年 春日部市立緑中学校評議委員、埼玉県教育委員会委員を歴任。  
2004年 NPO法人気象キャスター・ネットワークを設立。  
2010年に同相談役に就任。  
2006年 株式会社ウイングの取締役に就任。NHKの気象キャスターを務めるかたわら全国で気象教育、環境教育、防災教育などについての講演を行っている。

ここ数十年みただけでも、毎年温度が高いというのを更新しているし、強い雨も更新しているし、風も記録的な暴風が吹いているという事は確かです。

すべてが温暖化のせいというわけではないですが、それも一つの原因でしあうね。気温が上がることによって、空気中の水蒸気の量が増えて雨も強まるという予測も出ています。また気温が高くなると、今度は北と南で温度差が出来てきたりすることもあります。そういう熱の差によつて低気圧が一気に発達するような事はあるかもしれません。この冬の寒波は地球の温暖化が影響しているのではないかと指摘する人もいて、北

— 埼玉県では、ゲリラ豪雨や竜巻などの被害が他県に比べて比較的小ない気がするのですが。

皆さん他県に比べて少ないと言つ

てやるんですけど、個人的にはそう思つてないです。利根川が決壊してもすごい大水害を起こした昭和までの距離はどのくらいでルートは

— そこではどんなことを子どもたちに向けて話されますか。

まずは子どもたちの夢の話をしま

度が高いというのを更新しているし、強い雨も更新しているし、風も記録的な暴風が吹いているという事は確かです。

極海の氷が溶けて少なくなるとシベリアの高気圧が強まるという研究結果があるんです。とても離れていましたが、シベリアの高気圧が強まるところは寒いという図式です。全体的には地球全体の温度は上がっているのですが、局所的には寒くなるといふ事がある。単に暑さだけではなく寒さもたらすと、今回改めて分かりました。

— 埼玉県では、ゲリラ豪雨や竜巻などの被害が他県に比べて比較的小ない気がするのですが。

皆さんは他県に比べて少ないと言つてやるんですけど、個人的にはそう思つてないです。利根川が決壊しても

22年のカスリーン台風の時からまだ60年です。災害の歴史からすると60年なんていうのは、ついこの間と思つてください。ですからまた同じ事が起こらないとは言えません。今でも小規模の水害は起つてますよね。決して少なくはない。荒川も古利根川も利根川もありますし、中小河川がたくさん入り組んだ県ということで、川が多い分、水害が起ります。ややすい場所ではあると思います。堤防は強くなつてますけど想定外の雨が降る時代ですから、ちゃんと対策は取つて、普段から備えをきちんととしておくという事でよいですね。

ハザードマップなどを見て、避難所までの距離はどのくらいでルートは

— この活動は主に小学生が対象ですね。子どもへの気象に関する教育といふのはやはり必要だとお考えでしょうか。

大事ですね。温暖化の時代を生きる子どもたちですから。温暖化とは何かを知って、じゃあどう行動すればいいか、環境というものを小さい頃から理解して自分で行動できるようになります。これからの自分が住む地球環境を良くしようという子どもたちをいっぱい増やしていきたいです。

— そこではどんなことを子どもたちに向けて話されますか。

まずは子どもたちの夢の話をしま



か。ぜひ自然に目を向けて、子どもたちも自然に親しんでいてほしいです。

— ところで近年、地球温暖化が問題になっています。

たのも頃からの夢でした。小学

将来とつながるじゃないですか。「自分が大人になった時に今よりも気温が高くなつて、そうするとやっぱり今までちょっと住みにくい町になつてゐる事も予想されるよ。そうならないために地球温暖化について考えて、今のうちから行動していくといいんだよ。みんなの夢が実現できる環境が保たれているといいよね。だから一人一人が力を合わせてやろうね」という話をします。

身近な事でいいんです。電気をこまめに消すとか水は出しつぱなしにしないとか、昔から言われている基本的な事なんです。分かっていても改めてなぜそつするのかっていう強い動機がないと続かないじゃないですか。ですからそこで強い動機付けてあげる。

身近なところから自分の将来がある地球環境までという、とても幅広い話ですよね。

自分の子どもの時もそうだったし、自分の夢が実現するならば良くしようという、人間誰でもそう思うじゃないですか。広いようで実は身近な事なんですよ、自分に直結する事なんで。自分の住んでる地球がどうなっていくのかっていう事を知つていて行動するのは大事ですよね。

—平井さんは地域でも活動されてい

ます。年配の方の発言の仕方などを聞いて、「ああ、こういうしゃべり方がいいのか」なんて学べるし、逆に年配の方も子どもの純粋な意見とかを楽しんでいます。そんな中で新しいものが生まれてくれればいいなあと思って、今はもうごちやまぜでやっています。

—とても自由な感じで、何でもできて、広がつていきそうな活動ですね。



「心技体」の3つの分野のプロを呼んで学校とは違つたことができるという、可能性としては広がつていて活動だと思います。

やつぱり夢を持つて行動できる子どもつていうのはいいですね。そういう子はやはり生き生きしていますし、なるべくそのように仕向けたいなと思っています。

一話は変わりますが、平井さんは何度も富士山に登られていると伺っています。

もう30回くらいは登つています

ね。私のマラソン仲間が富士登山競争という富士山を走つて登るレースをやつていたのがきっかけです。

ふもとから山頂までの三千㍍の高

低差を制限時間4時間半で、1人で登りきるレースなんです。レースに出るようになつたらさらに仲間が増えて、毎年ゴールの山頂で握手を交わし「また来年も会おうね」って励ましあつて、という感じです。

—平井さん自身がさまざまな活動を通じて最も伝えたいことは何ですか。

埼玉県の人を対象に言えば、もつと地元を好きになつて欲しいなと思います。もちろんそれ好きだと思つて欲しかったんですけど、もつともつと好きになつて欲しいなと。

気象の観点からいえば、地域の過去の災害の歴史とか今後の予測とかも十分に知つておいて欲しいですね。自分の地元を知つておくことが自分が自分を守るという事になりまし、自分を守るという事は命を守るという事で、未来の夢、目標を達成するのに最低限必要な事ですか。自分の住んでる地域を大事にしてほしいなと思います。

—子どもたちに対しても同じような思いでしようか。

そうですね。埼玉県の子どもたちは、埼玉が自分の生まれ故郷ですから、当然故郷は大事にして欲しいですし、もっと好きになつて欲しいなと思いますね。